

遠隔授業に四苦八苦

新型コロナウイルスの影響で大学や高校でインターネットを活用した遠隔授業が行われる中、市内で唯一、一般向け光ファイバー回線が未整備の鉾立地区では、通信速度が遅いADSL（非対称デジタル加入者線）を利用する家庭が多く、学生・生徒

は動画が止まるなどのトラブルに四苦八苦する。本年度から小学校の教科書にも動画が見られるQRコードが掲載されるなど、教育界でのIT活用はますます拡大が予想され、情報格差への懸念が広がっている。
(松山定道)

光回線ない鉾立の学生・生徒



「また動かなくなっ(18)北方はため息を吐いた。パソコンでオンライン授業を視聴していた岡山大1年梶原董さん。パソコンを接続しているADSLの通信速度を

測定すると、動画視聴に最低限必要とされる1Mbpsを下回ることもしばしば。光回線なら数十Mbpsが一般的だ。

同大は1学期が全て遠隔授業になった。教員が収録した映像を視聴して課題を提出したり、ビデオ会議式の講義に参加したりすることで単位認定される。もう一度見る時間もばかにならない。同じ授業を受けるにも不公平と梶原さんは訴える。山陽学園高1年栗野一輝さん(15)は、5月末ま

での休校中もビデオ会議システム「Zoom」で授業がある。ADSLで途切れ途切れになる音声に「先生に指名されても気付かないことがある。入学早々、授業態度が悪いと思われるのが心配」

パソコンで教員が配信した動画を見る大学生。回線状況により動画が止まることも多いという＝北方

懸念される情報格差

と表情を曇らせる。ける。

ADSLは、光回線提供エリアでは近く廃止される前世代のサービス。光回線に比べて不安定で、以前から夜間はつながりにくかったが、新型コロナによる外出自粛の影響で利用が増えたせいか、平日の日中も反応が遅いことが多くなったという。

学校から指定された動画を見ることになっている玉野高1年岡崎裕矢さん(15)は「家族が仕事でパソコンを使用中は、見られたものではない」と諦め顔。同高3年平松英辰さん(17)は、受験生としてZoomで教員の指導を受ける機会もあるが、不安定なADSLではなく、携帯電話の回線を使う。ただ、1日のデータ通信量が2ギガバイト近くになることも。契約する格安スマホ会社から、月30ギガバイトが無償で追加されたものの「通信量がオーバーしないか心配。他地区の友達は自宅の回線を好きにだけ使えるのに」と打ち明

市PTA連合会の梶原秀夫会長(45)は「北方は」すく近くまで光回線が来ているのに、鉾立地区だけが取り残されているよう。休校中に小中学校でも家庭のIT環境についてアンケートがあったが、教育を受ける環境に不平等はあっている」と語気を強める。市総務課は「現代のインフラとして超高速通信の必要性は認識している。民間事業者の進出に必要な条件をあらためて確認するとともに、今、困っている人たちへの不便を解消できる手段がないか検討していきたい」としている。